

社会科の分析と改善策 1年

① 結果分析

項 目	分 析
社会的事象への 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的事象や地理的事象に対する小学校での学習が身に付いている生徒は発言等積極的に行い、意欲的に授業に取り組む姿勢が見られるが、課題としては歴史・地理両方に関心をもつことができず、授業に対して集中して取り組む姿勢が続かない生徒もいる。
社会的な 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から地理的分野及び歴史的分野におけるさまざまな事象を読み取り、多面的・多角的に考察し、自分の考えをまとめて発表できるようになってきているが、課題にあった内容を資料から読み取り、まとめていく力の育成が今後の課題である。
資料活用 の技能	<ul style="list-style-type: none"> ・数多くある写真や地図、歴史的資料等の各種資料や各種統計グラフから、必要な内容を選択し、効果的に活用していく能力を育成していく必要がある。
社会的事象に ついての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心のある事象についての知識はあるが、歴史的事象や地域的な特色との関連で十分に理解しているわけではない。単に地理的・歴史的事象の暗記にとどまらず、歴史的な意義や地域社会の関連と結び付けて理解していく学習を行っていくことが必要である。

② 具体的な改善策及び生徒の活動や発表力を身に付けさせるための工夫と、評価（検証）方法

【具体的な改善策】

- ・ワークシートや白地図等の活用と適切な課題の提示により、授業だけでなく自宅学習の機会を増やしていく。
- ・各地域や各時代の特色を多面的・多角的に考察できるよう、さまざまな資料から有用な情報を選択し、まとめる学習を進めていく。
- ・授業中の挙手による発言の誘導のほか、小単位のグループ活動を取り入れ、意見の集約と発表発動を行い、授業に参加する意欲と発表力を身につけさせる。
- ・教科書・資料集の他、映像等の視覚的資料や統計資料を積極的に提示することで、関心をもてるようにする。

【評価（検証）方法】

- ・ワークシートや白地図等の点検により、関心・意欲や思考、資料活用および知識の習得の検証を行う。
- ・定期テストや小テストを実施する。
- ・授業中の挙手による発言の誘導のほか、小単位のグループ活動を取り入れ、意見の集約と発表発動を行い、授業に参加する意欲と発表力を身につけさせる。

社会科の分析と改善策 2年

① 結果分析

項目	分析
社会的事象への 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上を図るための調査では 91.7%の正答率である。1年次の歴史的事象や地理的事象の学習が身に付いている生徒は発言等積極的にいき、意欲的に授業に取り組む姿勢が見られる。一方、授業に対して集中して取り組む姿勢が続かず、意欲的に取り組むことができない生徒もいることが課題である。
社会的な 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上を図るための調査では 58.9%の正答率で、読み解く力に関する内容でも読み取る力や解決する力がそれぞれ 65%以上であることから資料から地理的分野及び歴史的分野におけるさまざまな事象を読み取り、多面的・多角的に考察し、自分の考えをまとめて発表できるようになってきている。取り出す力は 53.5%であることから今後資料から問題解決に必要な項目を正しく選び出す力を育てていく力の育成がより必要であることがわかる。
資料活用の技能	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上を図るための調査では 58.9%の正答率で、ワークシートや白地図等の作業は多くの生徒が教科書・資料集を使い丁寧にやってきた成果がある程度あらわれている。 読み解く力に関する内容の取り出す力が 53.3%である。さまざまな資料から特色を読み取り必要な内容を選択して体系的に報告書にまとめる力の育成が今後の課題である。
社会的事象に ついての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上を図るための調査では 46.8%の正答率である。地理的及び歴史的事象の知識の確実な習得と理解が不足していることがわかる。定期試験前程度しか復習をしない生徒が多く、学力の定着が十分ではない。

②具体的な改善策及び生徒の活動や発表力を身に付けさせるための工夫と、評価（検証）方法

【具体的な改善策】

- ワークシートや白地図等の活用と適切な課題の提示により、学習機会を増やしていく。地理的分野では、主題図や写真資料、各種グラフを活用し、相互の比較や関連を通して地域的特色を捉えることができるようにする。歴史的分野では各時代の歴史的事象の意味・意義や特色を、資料を通して多面的・多角的に考察し、まとめと発表ができるようにする。
- 授業中の挙手による発言の誘導のほか、小単位のグループ活動を取り入れ、意見の集約と発表発動を行い、授業に参加する意欲と発表力を身に付けさせる。

【評価（検証）方法】

- ワークシートや白地図等の活用と適切な課題の提示により、学習機会を増やしていく。
- 授業中の挙手による発言の誘導のほか、小単位のグループ活動を取り入れ、意見の集約と発表発動1動を行い、授業に参加する意欲と発表力を身に付けさせる。

社会科の分析と改善策 3年

① 結果分析

項 目	分 析
社会的事象への 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科を苦手とする生徒は小学校からの基礎学力が欠落している、学習障害、もともと社会科に興味、関心がうすい生徒などさまざまなケースがあるが比較的多い学力低位層の底上げが課題である。いずれの場合も、学力上位層も飽きさせないように教科書的の知識をベースにして「知識を知る」ではなく、知識を得ることの楽しさ、「知識を味わえる」ような「生きた知識」を提示することを心がけたい。
社会的な 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業プリントを通して思考力を促す問いに対する答えがうまくまとめられるようになった生徒が多くなってきたが、小グループや班単位のなかで自分の考えを主張し、話し合いのなかで説得力を持って表現できるような機会を増やしていきたい。
資料活用の技能	<ul style="list-style-type: none"> ・テスト向けの資料やデータに限られると興味をもたせられないので世の中の動きやしくみを理解させる手立てとして最新の資料やデータ、特に新聞やインターネットの情報の中で日常生活に役立つものを提供する機会を増やしたい。
社会的事象に ついての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな基礎知識がベースとなって思考力、判断力、表現力が養成できると考える。その基礎知識が全般的に〔地理、歴史中心に〕身につけていない。体験から得られる自然や伝統文化、歴史に関する不易の知識を核にして基礎知識の土台をより強固なものにしていきたい。

②具体的な改善策及び生徒の活動や発表力を身に付けさせるための工夫と、評価（検証）方法

【具体的な改善策】

- ・副教材でテスト形式の問題に慣れさせ、1. 2年の基礎知識の定着を図る。
豊かな基礎知識をベースにして思考力、表現力が養成できるようにする。
- ・授業中、個々のそれぞれの単元、学習内容に対する興味や関心、学力のレベルに応じた発問を用意する。

【評価（検証）方法】

- ・授業中の発問や授業プリントの思考力養成の問いに対する生徒一人一人の答えを学力のレベルに応じて定期的にチェックする。
- ・毎週、生徒一人一人の副教材の1. 2年の復習課題の進行状況、でき具合をチェックする。
- ・毎回、授業プリントのでき具合をチェックする。